

在上海中日公理基督教會

REEL No. 1-0193

0153

九月一日 祝園

皮ノ角

上海 七四九二  
幸甚 幸甚 幸甚  
山崎 幸甚 幸甚

第四五号

元正書院之民國長三三在留朝鮮人向之相考  
勢カハ朝鮮人住居者運亨  
在任住居者九九年一、一、一  
勸誘之志ハ我カ朝鮮存カ者之重層ノ為  
蘇魯共ニ今十四日書カレニ門司經由  
東京ニ向キ書カレリヨハ各地ニ於テ

獨立運動ニ關係ニ朝鮮人比較的穩健  
復シ抱持スルニ付此際彼ニ誠意ヲ示シ  
我カ之懐ケニテ獨立運動ヲ打斷スラ  
得等ト思フモ是ニ付若シ同人起意者  
節ハ御儀ニ於テ可然應酬ナリトシ又  
同人日本滞在中心相當監視ヲ要スルニ  
右監視ハ本人之懐ケニテ監視ニ依リ  
高馬ハ崔謹思 (叔書) 及申  
高玩ヲ同伴シテ山崎ハ監視

ノ專視、奉人志、此在而人、之好、之、  
同様甚、助、之、元、子、可、些、衛、配、慮、ヲ、講、  
在、立、公、使、ハ、暗、號、ノ、倍、郵、送、セ、リ

次及決

大正十一年十月一日 授筆

日支基督教公理教會宣言書

中國各教會之各位先生鈞鑒  
 蘇教徒ニシテ曾テ本國ニ留學スルコト七箇年  
 ナリ先年支那ニ渡來シ上海日本人耶蘇教  
 青年會ノ幹事長ニ就任シ上海商業學  
 校々長ヲ兼子歴任スルコト三載ナリ惟タ日支  
 兩國ノ國家的或國民的禮事情ニ對シテ畧ホ經驗  
 アルノミナラス即チ日支交誼ノ破壞又ハ感情  
 疎隔ノ事ニ関シテハ更ニ注意ヲ倍加シテ研究シ  
 餘力ヲ遺ササルナリ竊ニ思フニ近二十世紀ノ各國  
 ノ潮流ハカヲ竭シテ考究スルニ暇ナシト雖モ但タ大  
 同ノ主義及ヒ平和親善提唱ノ志ニ於テハ未タ嘗

外務省

テ一日モ腦底ニ忘レズ邇來種々ノ非親善的及  
 目的離隔的觀念ハ波瀾雲詭騰擁シテ末ノ  
 國際問題ノ顛倒ヲ惹起セリ其間ニ如何ナル  
 重大原因ヲ存スルヤ想ヒ知ルハ是ヲ以テ英  
 米ノ新聞記者ニハ其罪ヲ日本政府ノ外交方  
 針ノ誤ニ歸スヘク支那政府並ニ其國民及ヒ  
 日本ノ一般國民ハ全然其責任ヲ負ハスニ至  
 立論セル人アルニ至レリ鄙人以為ヘラク此レ正  
 確ノ見解ヲ得タルモノニアラス此問題ニ依テ論  
 スレハ日支兩國々民ハ共ニ其責任ヲ負ハサルヲ  
 得ス而シテ兩國ノ耶蘇教徒ノ凡ソ上帝ノ前  
 ニ立テルモノハ更ニ深々ニ其責任ヲ負フコトヲ  
 思ハサルヲ得ス其故如何基督ノ遺訓ニ曰ク「汝

等ハ當ニ互ニ相愛スヘシト再ヒ一歩ヲ進テ言フ  
汝ノ仇敵ヲ愛スヘシト此レ即チ吾耶蘇教  
骨髄ノ精神ナリ大凡ソ曰文西國真誠ノ耶蘇  
教徒ハ俱ニ大同主義ヲ抱キ天下ノ凡ソ上帝ニ  
屬スルモノヲ視ル皆ナ吾カ兄弟姊妹ナリ以テ所人  
書第ニ章  
ハ基督耶蘇ニ接近セリ彼ノ流血ノ功勞ニ因テ已  
ニ親近スルコトヲ得タリ彼ハ我等ヲシテ好和セシ  
メ西方ヲ合シテ一トナシ中間ヲ隔斷セル墻垣ヲ破  
毀セリ又身體ノ死ヲ受ルニ因テ儀文ヲ講スルノ  
律例ヲ除却シ即チ冤仇ヲ解釋シ西方ヲシテ  
好和セシメ彼ノ身上ニ於テハ一個ノ新人ト成リ竝ニ  
彼ノ十字架ニ因テ西家ヲシテ聯子テ一體トナシ

外務省

上帝ト復和シテ冤仇ヲ都テ彼ノ身上ニ消滅  
セシメタリト是ニ由テ之ヲ觀ルニ双方ノ耶蘇  
教徒カ苟モ能ク此レヨリ合同提携ノ精神ヲ具  
シテ積極的ニ進行セハ兩國政府外交ノ誤謬ア  
ル場合ニハ吾儕ハ之ニ忠告シテ國文改善ノ能力  
ヲ有セシムヘシ故ニ曰文西國ハ親善ヲ欲セサレハ則  
チ巴ハ若シ實際ノ親善ヲ欲セハ耶蘇教徒以  
外ニテハ漸シテ效ヲ奏スル能ハス今公理教會ノ  
設立ハ即チ此カ故ナリ試ニ亞細亞諸國ヲ觀ヨ  
最近五十年間ハ多ク困難ニ遭ヘリ少シト謂フヘ  
カラス畧ホ一ニヲ擧レハ土耳其、波斯、印度、安南、  
暹羅、朝鮮、緬甸等ノ國ノ如キ誠ニ人ヲシテ大ニ  
畏懼セシメサランヤ吾儕ハ耶蘇遺命ノ言ッ

守リ孔子安懷ノ志ヲ推シ但夕亞細亞ノ日支  
兩國ヲ放瀆セント欲スルノミニアラス地球ヲ環  
視スルニ皆ナ上帝覆載ノ中ニ在リ鄙人ハ素ヨ  
リ天下平和親善ノ宿志ヲ抱キ再ヒ興起ス敢  
テ微カヲ盡サスニアラス以テ熱誠ヲ表シ平和親善  
ノ犧牲トナラン故ニ甘シテ青年會幹事商業  
學校長ノ職ヲ辞シテ日又基督敎公理敎會ヲ  
創立ス此レ即チ鄙人ノ血忱真意ナリ

宗旨

耶蘇敎ノ真理ヲ支那ニ播揚シ人民ヲ勸導シテ  
彼主ニ帰依セシム蓋シ耶蘇敎徒ノ相愛スルハ俗  
人ト同カラス凡ソ世界各國ノ熱誠ナル耶蘇敎  
徒タルモノハ其言語ハ統一スル能ハスト雖モ但夕精

外務省

神ノ連絡ハ皆ナ之ヲ有ヤリ故ニ日又耶蘇敎  
徒ハ皆ナ大同主義ヲ抱キ互ニ相愛護シ互ニ  
相提携シ永ク互ニ相愛スルノ主訓ヲ守リ社會  
ヲ同フレ根本ヲ同フス共ニ其互相煎ルノ隱痛ヲ  
除キ新シテ相關ト相奪ト野蠻ノ行徑ヲ踏ムハ  
カラス定テ當ニ徹底的親善ヲ創造シ兩國政  
府兩國々民ヲシテ俱ニ天下人心ノ公理ニ從ヒ各國  
人民ト協力シテ和合親善シ以テ天下ノ平和ニ  
資シ彼我俱ニ進マトシテ日ニ上ルノ發展アラシム  
ヘシ是レ誠ニ誠心願フ所ノモノナリ  
本會ハ暫ク上海北四川路底公園韃子場施高  
塔路十三號ヲ假リテ發起會所トナシ日又會  
員ノ増加ヲ俟テ再ヒ本會擴張ノ法ヲ組織セシ

大中華民國八年十月中浣

總幹事 藤田九皋  
幹事 汪宗程

(假事務所 上海施高塔路十三号)

外務省

REEL No. 1-0193

0159

## 中日基督教公理教會宣言書

中國各教會諸位先生鈞鑒。鄙人基督徒，曾留學美國七年，上年來華，充任上海日本基督教青年會總幹事，兼上海商業學校校長，歷任三載，不惟對於中日兩國之國家的、或國民的種種事情，略有經驗，即關於破壞中日之善誼，或感情疎隔之事，更加倍注意研究，不遺餘力者也。竊思近二十世紀，各國潮流，雖無暇竭力考究，但於大同主義，以及提倡和平親善之志，未嘗一日忘於腦底。邇來種種非親善的、反目的、離障的觀念，波譎雲詭，蜂擁而來，惹起國際問題之顛倒，中存何等重大原因，可想而知。職是之故，以致英美新聞記者，有人立論，謂當歸罪日本政府外交方針之誤，中國政府與國民，及日本一般國民，全然不負此責任云云。鄙人以為此非得正確見解，依此問題而論，中日兩國國民，不得不共同負此責任，而兩國之基督徒，凡立於上主前者，更不得不思深深負此責任，何以故？因主有遺訓曰：「爾等當彼此相愛。」再進一步言，「須愛爾仇敵。」此即吾基督教骨髓之精神，大凡中日兩國真誠之基督徒，俱抱大同主義，視天下凡屬主者，皆吾之兄弟姊妹也。參觀以弗所人書第二章十三節——十六節「你們從前遠離上帝，現在靠著基督耶穌，因他流血的功效，已得親近了。他叫我們和好，將兩下合而為一。拆毀了中間隔斷的墻垣。又因身體受死，除掉講儀文的律例，就將冤仇解釋。叫兩下和好。在他身上成爲一個新人。并因他的十字架，使兩家聯爲一體。與上帝復和。將冤仇都滅在他身上。」由是觀之，彼此基督徒，苟能從此具合同提携之精神，積極進行，遇兩國政府外交之有謬誤者，吾儕可以忠告之，俾有改善國交之能力，故中日兩國，不欲親善則已，若欲實力親善，舍基督徒外，斷不能奏效。今公理教會之設立，即此之故。試觀亞細亞諸國，最近五十年間，多遭困難，不可謂少，略舉一二，如土耳其、波斯、印度、安南、暹羅、朝鮮、緬甸等國，不誠俾人大可畏懼者哉。吾儕守耶穌遺命之言，推孔子安懷之志，不但欲救濟亞細亞中日兩國而已，環視全球，皆在上帝覆載之中，使鄙人素抱天下和平善誼之宿志，再爲興起，不敢不盡棉力，以表熱誠爲和平親善之犧牲，故甘辭青年會幹事、商業學校長之職，創立中日基督教公理教會，此即鄙人之血忱真意也。

### 宗旨

播揚基督教真理於中華，勸導人民皈依救主，蓋基督徒之相愛，非同俗人，凡世界各國之爲熱誠基督徒者，雖其言語不能統一，但精神的連絡，是皆有之。故中日基督徒皆抱大同主義，互相愛護，互相提携，永守彼此相愛之主訓，同是社會，同是本根，共除其豆相煎之隱痛，斷不可相鬪相奪，蹈野蠻行徑，定當創造徹底的親善，俾兩國政府、兩國國民，俱從天下人心之公理，與各國人民協力和合親善，以資天下平和。彼此僑有蒸蒸日上之發展，是誠心所願者也。

本會暫假上海北四川路底公園靶子場施高塔路十三號爲發起會所，俟中日會員加多，再組織擴充分會之法。

大中華民國八年十月中浣

總幹事 藤田九臯  
幹事 汪宗程

假事務所  
上海施高塔路於參号



秘

情報部第一 部 第二部

上海及南京に於ける教化事業

一、上海に於ける我組合教會の教化事業ハ大正八年七月迄の如き目的を以て開始したり

情報部長

(1) 日支人を基督教に由りて教化し兩者を融和結合して将来支那の精神界及思想界を開拓指導するの根柢ならしむる事

(2) 上海に於ける朝鮮人を感化教導して不逞團體の矯正を計る事

(3) 此れが為め先づ日本人の信徒を結合し漸次支那人朝鮮人に及ぼす事

情報部次長

(4) 上海の教會を「中日公理基督教教會」と稱する事

二、右の目的を以て事業を開始したるが十月に至り日支人の近接地たる狄思麻路五十一番地に好適なる西洋建二棟の家屋を見出

したるを以て土地諸共(約五百坪)之を購入し教會及其機關を設置するの方針を立て居れり只目下經費不足の為め一棟を教會に充て一棟は他に貸與し一ヶ月百弗の家賃を得以て經費の一部に充て居れり

三、目下右の教會にハ會員約五十名あり排日の氣風消滅すると同時に經費の工夫就き貸與の一棟を使用し得るに至らば支那少年少女の為め夜學學校を開設するの目論見なり

四、朝鮮人に對して未だ充分教化の機會を得るに至らざるも其内の善良分子ハ我教會の誠意を運び將來の好機會を待てる者ハあれば當初の目的を達するの日亦た遠きに非ざるべし

五、目下上海に於ける牧師は古屋孫次郎氏にして氏は米國に於て神

公井製

加藤新吉

REEL No. 1-0193

0162

REEL No. 1-0193

0163

中日各埠茶館寄  
古屋好修

學を研究し按手禮を領し昨年十月以来余の求に應じて赴任し  
 引續き傳道に努力しつゝ、あり性穩健篤実なる好個の人物なりとす  
 六、南京には本年三月牧師藤田九皋氏夫妻を派遣し同地金陵大學  
 に於て支那語を研究せしむると同時に友の働きを取りつゝあり  
 (1) 南京に於ける智識階級及教育者若し學生等と懇親を結び思想方  
 面の指導と啓蒙に努力する事  
 (2) 學生の思想の傾向を研究し殊に過激化しつゝある傾向に付ては十  
 二分の注意を以て研究し且つ其結果を通信する事  
 (3) 各方面にて出版する思想問題に觸れ居る印刷物中より特に参考  
 となるべき部分を抜萃翻譯する事  
 (4) 南京に於て將來傳道機關を設置するの外に支那人の爲め幼稚  
 園並に施療院の設置に關して準備的計畫を為す事  
 (5) 南京の日本人に對し傳道を開始し現に二三十人の同志を結合  
 して集會を催しつゝある事  
 七、藤田九皋氏も米國に於て神學を研究し牧師の試験に合格し  
 て按手禮を領し日本に於ても曾て一個の教會を牧し居たことあり  
 昨年七月以来余と提携して支那傳道の爲に盡瘁しつゝあり  
 八、上海及南京に於ける古屋、藤田兩氏は互に呼應聯絡して南支方面  
 の精神界に奮闘し北京に於ける清水安三、奉天の渡部守成、金  
 麟等諸氏と遙かに相應じて其任務に熱心しつゝあり  
 九、右兩牧師には毎月金貨貳百圓を給し居り  
 右の通りに御座候也

富井製

大正九年六月十七日

渡瀬常吉

右様へ封

白紙封

一 大正九年六月より毎月銀別百円、補助ヲ取込ル事  
但し右將來ノ擴張計畫ハ、何寺、何係ヲ外此省ハ、互換  
肉被保計畫、村ニ補助ヲ與ルル事  
二 補助金ハ、毎三月毎ニ、高信信事依ニ、控テ、代表者  
ニ、交付スル事

大正九年六月五日

情報部  
吉吉 明吉

右様へ封

大正九年七月五日

渡瀬常吉

明吉

富井製

入部 機密

大正九年七月廿一日 接獲 9

情報部長

機密

機密送第 三 號

情報部第 部

大正九年七月廿一日

大正九年七月七日 發送

別紙

情報部次長

3

石村 領事

内田 外務大臣

在上海中日公署 基 督 教 會

補助 係

要再回

要目付了

本件之團之別中島、由、在上海山  
島、總領事、訓令、致、並、向、事、由

夕 月 行

右の如く事若くは申す事ありて是れ地  
難事教師ノ行動及成績等ノ開  
隨時申方ノ報告ニ成ル付候申  
進方也

上海山岳の奥地事ニ就本件往信  
寫附ノ一



文書課長

大正九年七月七日 接受

大正九年七月六日 起 草  
同 年 月 日 附 大正九年七月七日 發送

機密 機密送第二十八號

主任

情報部長

主管情報部第一部

内田大臣

在上海山西路領事館

在上海中日公理基督教會

補助、件

外務省

情報部長

要目了

要再回

在瀋陽及南京、杭州、長沙、廣州、香港

在貴地中日公理基督教會。對日本  
年六月より向つて一、二年間毎月銀一  
万円補助、事決定致す。就てハ同教  
會牧師古沢孫次郎氏貴館に出  
頭、節々毎三ヶ月毎銀六万円  
貴館保管金中より交付す。領收  
書徴せし後、本補助金、同教會  
経費補助に過さず。将来擴張計



書、河津、岡原、栗原、下、日向、教員  
右般師等ハ在リテ  
 貴地系ニ南米、漢ラント 日支人、教化ト  
 兩者、融和結合シ、漢ラント 日支人、教化ト  
 基、漢ラント 日支人、教化ト  
 指事、漢ラント 日支人、教化ト  
 提出セシメ、漢ラント 日支人、教化ト  
 其、漢ラント 日支人、教化ト  
 時、漢ラント 日支人、教化ト  
 本、漢ラント 日支人、教化ト

外務省